



加藤麻美さん

今回は、校長先生のご理解のもと、保護者に呼びかけ、小学校に英語活動支援員グループを立ち上げて積極的に活動されている加藤さんの活動報告です。

J-SHINE小学校英語上級指導者  
東京都世田谷区立小学校3校にて英語活動支援員5年目  
専門学校児童英語養成講座講師1年目

## ■J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

私がJ-SHINE資格を取得しようと思ったのは、公立小学校のどんな子どもにも英語を学ぶ楽しさを味わってもらい、一人でも多くの子どもが英語を通じて世界を広げ、心豊かな生活を体験してほしいと思ったからです。また、自宅でのボランティア児童英語教室を経て、再就職の場として、公立小学校という教育現場で子どもたちと共に学び合いたいと思うようになったからです。

小学校の現場に入る事が出来たきっかけは、平成22年に長女が通っていた地域の公立小学校でPTA活動を通じて、海外経験があり英語を指導できる母親を募り、学校内に英語活動支援員のグループを結成し、学校に子どもたちの英語教育に少しでもお役に立てないだろうかと校長室をたたいた事です。幸い校長先生に興味を持ってもらうことが出来、支援活動が始まりました。

当時は、全国的に英語活動が必修となる前年で、先生方と試行錯誤をしながら研究授業を積み重ねました。保健、音楽、図工、家庭科の専科の先生方も参加して下さい、他教科と外国語活動との繋がりを見つけ、生かし、先生方と工夫してレッスンプランを作り上げる事はとても有意義でした。学校をあげて外国語活動研究に取り組めたことは、先生方にとっても私たち外国語活動支援員にとっても自信につながり、この学校の外国語活動熱を高められたと思えました。

## ■現在の活動状況

熱心な支援員仲間にも恵まれ、仕事の流れや心構えをパンフレットにまとめました。その一部をご紹介します。

私がイメージする外国語活動支援員とは、先生方の授業を活性化させ、子どもたちが外国語を通して世界を知り、人と通じ合う喜びを体感するお手伝いをする人です。

### 【授業前】

- 1 先生との打ち合わせで、役割分担を明確にする。
- 2 毎回授業の台本をつくり共通理解をはかります。  
支援員はALL ENGLISHで、先生が日本語でフォローも検討可能。
- 3 子どもたちが目を引く小道具、教材を準備する。
- 4 名札をつけてもらい、子ども一人一人をよく知る努力をする。

### 【授業中】

- 1 商売道具として、台本、教材、辞書、工夫（写真、イラスト、新聞記事、広告、笛、タンバリン、指人形、歌、絵本、早口言葉、手遊びなど）、笑顔を忘れずに。
- 2 心構えとして、先生方の現場判断に臨機応変に対応する。

- 3 子どもたちの反応を認めて、褒めて、励ます。
- 4 自ら授業を楽しむ。

### 【授業後】

- 1 振り返りを記録ノートに記し、先生と支援員の気づきを伝え合い、次の授業に生かす。
- 2 支援員同士の授業見学をして、支援力を高める。
- 3 学期末の振り返り会を開き、意思の疎通と改善を図る。
- 4 学校内外の研修を先生と一緒に受けて、お互いを高め合う。

### 【体制】

- 1 連絡BOXを設置し、英語活動各種資料を先生と支援員がいつも見る事ができる。
- 2 地震など緊急時の対応確認しておく。
- 3 学校行事情報を把握しておく。それを授業にリンクさせる。
- 4 5、6年生の発達段階の資料から児童対応のヒントを探る。

この内容は、支援活動1年目を終えて作り上げたものですが、今でも、読み返し初心に戻り、子どもたちや先生に接するための道しるべとなっています。

## ■今後の展望、課題、目標

来年度で6年目の外国語活動支援になりますが、英語の専門家であることの前に、子どもたちと先生との信頼関係を築き、温めていく努力が大切な事だとつくづく感じております。

“Support, Care and Enjoy the Connection”をキーワードにこれからも自らの支援力を高め、子どもたちに考えさせる、丁寧な授業を提供して参りたいと思っております。

これまでの支援の目標は、1年目は、教材は実物を教室に持ち込み、本物志向を心がける。2年目は、English Key Wordを斉唱してやる気を高める。3年目は、子どもEnglish Leaderがクラスを盛り上げる。4年目は、先生と振り返り交換ノートをする。教材はビデオカメラで撮影した生の映像を使って、臨場感たっぷり志向を導入する。5年目は、子どもと先生に即したオーダーメイドのレッスンプランを工夫する。

そして、間もなく来年度が始まります。これまでの取り組みを振り返りながら6年目は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに子どもたちがボランティア通訳として活躍の場を広げられるように毎回“おもてなし英語”を楽しみたいと考えております。

志さえあれば、どこかにチャンスは転がっているはず。粘り強く探し、資格取得後はなるべく早く学校現場で実践できるように、積極的に動いてみましょう！素敵なあなたを待っている学校が必ずあるはず。